

作品ID	書名	内容	所有	出版社
58	久生十蘭集	顔は、一尺二寸というから長大である。顎が唇から下四寸なのだから、奇っ怪である。風体は素寒貧。春夏秋冬、きまって古袷一枚、はげた鞆の両刀を落とし差しにぶら下げてのお出まし、というのだから、ぱっとしないどころの騒ぎではない。しかし、春風駘蕩というか、気ままで屈託がない。北町奉行の例線(れいくり)方なのに、ろくろく出勤もせず、長屋で捕物控えなどを読み散らかしの毎日である。これが、本		創元推理文庫